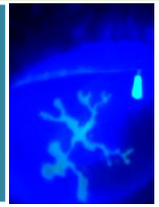
フジタガンカニュース

Vol.147 2022.12.27



目のサプリメント①(日本国内の新型コロナ感染を振り返る)

新型コロナの感染状況について…ちょっと現在までの日本国内の感染状況の経緯を振り返ってみましょう。最初に日本国内で新型コロナ感染が確認されたのは令和２年(2020 年) 1 月 16 日ですこの時１名感染。その後 12 月 31 日までに累計で約 23 万人の感染者数。翌年令和３年が１年間で約 150 万人の感染。そして今年令和４年が約 2639 万人の感染。なるほど、比較してみると分かる事ですが令和３年まではかなり感染者数が少ないんですね…ほぼ今年１年に感染している様な数字です。ちなみに、特に感染者数が多いのは今年の中でも下半期。この 7 / 1 ～12/24 で約 1881 万人の感染者数です。ううむ、実はほとんどの患者さんがこの半年で発症している？んですね、身近な方でコロナになったっていう方の話…そういえば聞くことが多くなったのはこの１年～半年ですね。勿論、それでも身の回りにコロナになった方が無い方もあるでしょうし、それ以前から周囲にコロナの方がある人もいらっしゃる訳なんですけど。

日本国内の1年毎の新型コロナ感染者数

令和2年	15万人
令和3年	150万人
令和4年	2640万人

一般的に感染症が収束するには、全人口の 60%が感染する事が必要と言われています(集団免疫という考え方)。これが、必ずそうなる？とは限りませんが…アメリカは全国民の 60%が既感染と言われていて(米国在住の友人からの伝聞情報、不正確かもしれません)この事も感染対策を緩和してきた理由の一つの様ですね。ただ、一時は小康状態だった米国の新型コロナ感染の状況は少し悪化、一時撤回されていたマスクの着用義務が再度見直され「マスク着用推奨」にシフトする動きもあるみたいですね。なので国民全体の 60%が感染したからといって新型コロナの感染が終わるとは限りませんが。ちなみに、新型コロナウイルスの抗体には種類があり、ワクチンを接種した場合には抗 S 抗体のみが陽性になりますが、新型コロナウイルスに感染した場合は抗 S 抗体と抗 N 抗体の両者が陽性になります。ワクチンの効果には限界がある？といった所でしょうか。という事を踏まえると「日本国内でも国民の 60%が新型コロナに感染すればパンデミックが収束するかもしれない」という予測が成り立ちます。日本国民の総人口を１億２千万人と仮定すると約 60%は 7200 万人。現在(12/24)、国内の新型コロナ感染者数の累計は約 2812 万人です。今後 6 カ月毎に 1881 万人の新規患者さんが増加するとして。R5 年夏に 7200 万人＋1881 万人＝4693 万人。R6 年の正月までに 4693 万人＋1881 万人＝6574 万人。目標の 7200 万人まであと 626 万人。概算で 1881÷6＝313.5、つまり１カ月に 300 万人の新規患者が発症するとすれば…R6 年の 2-3 月頃には累計患者数が日本国民全体の 60%をである 7200 万人を超える事になります。果たしてそんな予定通りに事が進むのか？もしかしたらもっと速いスピードで感染が収束していくのか？ただもしもこの予測が的中したとしても、これからの２年間はかなり多い数の新型コロナ感染者を社会全体が抱えていく事になります。さらに言えば、もっと多くの患者さんが発生すればもっと速い収束になるのかも？ただし、患者さんが凄く増えると間違いなく医療を圧迫してしまうので、今報道されている中国のような状況になってしまうのかも…いずれにしても、コロナが過去のものになるにはまだ少し時間が必要そうですね…。@@@